

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275800223		
法人名	(有)弥生トータルプランニング		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	千葉県山武郡大網白里町永田956-5		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyu.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成23年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)	民家改造型のメリットを十分に活かし、利用者本位で安心且つ一人ひとりが能力に応じた自立した生活が出来、安全で常に利用者の笑顔が見られるように支援していきたい。
--------------------------------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	今回の訪問調査の最中に東日本大震災が起こった。余震が頻発する中で、職員の誘導で入居者が落ち着いた行動で屋外へ避難する状況を見て、ホームで力を入れている活動の効果を知ることができた。入居者の継続的な自立支援を目指し、認知症の進行を遅らせる身体活動を伴う運動の取り組みである。具体的には、筋力の低下を防止するために日常生活の中でできるやさしい筋肉トレーニング体操と散歩を積極的に取り入れている。散歩を継続することで下肢の筋肉を鍛え、棒を使った体操は、上肢の筋肉を鍛えることになり、手すりにつかまれば家の中での移動は自力ででき、トイレでの排泄を可能にする、また食堂で食事をとることができる。できるだけ長く現状の生活を維持するために楽しく身体を動かす活動を通し、ケアの質の向上に全職員が一丸となって取り組み、成果を上げている。
---------------------------------	---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔モットーに理念を共有し、その実践に向けて日々取り組んでいる。	入居者、管理者、職員が理念を共有するために理念を絵で掲げている。実際の雰囲気も入居者と職員が和気藹々と家族のように暮らしており、新しい意見も取り上げ、問題が生じた時は全員で解決という姿勢が伝わってきた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の河川敷清掃、公民館の掃除等は必ず参加している。また散歩に出かけた際には必ず地域住民の方々と「笑顔」で挨拶を交わしている。近隣の住民からは季節の野菜や果物を頂くこともある。	地域活動に継続的に参加をすることによって、住民から認知症に対する考えが変わったという声が聞かれるようになった。地域の住民も高齢化が進んでおり、地域活動へのグループホームからの若い人の参加が期待されている存在になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館の清掃、老人会の行事に積極的に参加して、地域に溶け込み相互の理解を深めている。また地域住民の方々へ救命訓練などの参加を呼びかけ地域との一体化を通じて理解や支援を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や老人会の責任者に対してホームの理解を得られるように2か月に1回会議を開催している。また必要に応じて説明している。	運営推進会議での意見交換をサービスの向上に生かしている。特に今年度は、入居者の心身の機能を低下させないため、自分で歩けることを目標に散歩、ホーム内でできる棒体操、脳トレなどを積極的に取り入れ成果を上げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	折に触れ町役場などを訪問し必要な情報を得たり市町村からの必要な相談事には随時対応している。	管理者が成年後見に関するNPOの支部長である関係から、町役場からからの問い合わせ、相談に随時応じるなど、日頃から町役場の担当者との協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや日常の申し送りさらには研修等に参加をするなどして常に安全で開放的なケアに努めている。	今年度、身体拘束をしないケアに関する外部研修に職員が4名出席しており、職員全員で共有している。骨折した入居者の起居動作に配慮しながら事故防止に努めている現状をみて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる職員の熱意と努力を感じた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連する雑誌・資料等を参考に回覧して注意喚起や防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が千葉県後見支援センターの理事であるので、機会あるごとに学んでいる。また役場の包括支援センターからも常に相談を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に権利義務を明記し、利用者や家族などに不安や疑問点に対して十分な説明を行い理解を得て納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や不安・苦情を説明できる機会を事あるごとに設けて運営に反映させている。	入居者の事情でホームを訪れる家族は限られているが、家族からの意見は真摯に受け止め運営に反映している。ホームに来られない家族には、電話で様子を伝えている。電話に出る家族の様子が、だんだん明るくなっていると職員は感じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回会議を開き出席者できない職員は意見書を提出してもらっている。さらにはスキルアップを希望するスタッフには各種の研修に参加可能なように取組んでいる。	月1回の会議には、職員から議題が毎月上がっている。例えば、ケアに関する内容、救急時の対応、夜勤の体制、運営に関する事項など職員全員がホームの運営に積極的に参画しており、管理者もそれに応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を多く取り入れたり、時間のある時に仕事をしてもらうというシステムを設け、職員同士が意見交換できる雰囲気を作っている。個々の努力や実績勤務状況をよく把握するとともに相互信頼を得る機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修を受ける機会を確保して働きながらトレーニングしていくことを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは不定期であるが、必要に応じて電話による連絡や相互訪問を行い交流を深めている。一方、全国のCTホーム協会に加盟しており、同協会から情報を得てサービスの向上に取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていることなど本人自身から積極的に聴取して信頼関係を作ることに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から困っていること、不安なことなど各要望事項などをよく聞き信頼関係を作ることに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族が必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は決して先立つことなく、利用者と同じ目線で過ごしながら支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	喜怒哀楽を共にしながら、家族との連絡を密にして相互の信頼関係を構築することに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないようにその機会づくりに努めている。また利用者の友人等の訪問を歓迎している。	年賀状や手紙で馴染みの関係が継続するように支援している。墓参り、正月など家族のもとで過ごせるよう、家族に働きかけることもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をよく掌握してさりげなく係るように意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った場合も顔を見に行った家族の相談があればすぐに応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人に暮らし方の希望や意向をよく聞き、本人本位の期待に沿うように努めている。	計画作成担当者は、毎日居室を回り、同じ話の繰り返しであっても、入居者一人ひとりの話を聞いて、本人の希望や意向を把握する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしをよく把握し、馴染みの暮らし方を維持・継続することの生活環境を作ることを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの状況をよく把握して一人ひとりにあった出来ることを行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回スタッフ会議を開催し、意見交換の中から職員同士が相互に理解を深めてより良い暮らしを過ごせるように本本位のための介護計画を作成している。	日頃から把握した入居者や家族の希望を基に、職員同士が意見交換した上で、介護計画を作成している。また、定期的に見直し、現状に即した計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの介護日誌を詳細に記録に留め職員同士で情報を共有して日常の介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に直ぐに対応可能なように態勢を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じて、地域と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医院である「みどりが丘クリニック」に月1度往診してもらっているほか、常に緊急時でも対応可能な態勢を整えている。	かかりつけ医である内科の医師の往診が月に1回あり、緊急時の態勢も話し合っている。専門的な治療を必要とする入居者については、関係医療機関の受診を支援し、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常的健康管理を実施していると同時に適宜適切な医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けて医療機関と協力するように努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は、家族や掛かりつけ医とよく相談して方針を決めることにしている。	どこまでホームでできるのかは重要事項説明書に明記され、家族にも説明されている。重度化や終末期に向けた方針は、入居者の意向を汲みながら、家族とかかりつけ医と相談をしながら対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命訓令を行ったり、職員間の緊急連絡網を作成して急変や事故に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難計画マニュアルを作成して伝達・通報態勢や初動態勢、避難方法、避難場所等を見える場所に提示し、全職員が避難計画マニュアルに沿った行動をとれるように指導・訓練を行っている。また地域、自治体との相互コミュニケーションを図っている。	今年度は、入居者全員、職員8名の参加で消防訓練を実施した。実施前に近隣にも訓練の実施についてちらしを配布し、協力を得た。散歩コースの中に避難場所が入っており、周知を図っている。	災害の発生は、昼夜を問わないので、夜間想定避難訓練について実施することが望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉かけ対応記録などの個人情報の取扱には十分注意を払っている。	入居者にはさん付で呼びかけている。個人的な問いかけは、プライバシーに配慮して、耳元で話しかけている。職員は目線にも気を配り、一人ひとりの人格を尊重している姿がうかがえた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食、美容、買い物など直ぐに応じている。また日常の中でも利用者が進んで選べる場面づくりを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の好きな歌やテレビ番組など一人ひとりの好みを大切にして希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔を心掛けて美容院(カット、パーマ等)や化粧品を購入しておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手メニューを把握して同じ材料で違った食事内容にしたり、歯の無い人のために食べやすい工夫をしている。また毎日の生活当番を決め、職員とともに食事の準備、かたづけをするなどメリハリのある生活をしている。	食材は業者から取り寄せているが、地元の食材も加えながら食事作りを行い、楽しく食事をしている。入居者は、手伝いを楽しみにしており、当番を決めて食事の準備、後片付けを行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算の出来る食材を取り寄せて更に栄養バランスを考えて3品以上の副食品を作り、ご飯の量は個人に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩の歯磨き、昼はうがいの励行を奨励している。週2回のポリデントを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげなく声をかけて本にの習慣を活かしてトイレでの排泄の自立支援を行っている。	入居者の半数は、排泄が自立している。後の半数は、リハビリパンツを使用し、トイレでの排泄を支援している。排泄の自立のために筋力が低下しないよう、本人の持てる力を引き出す工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の便のチェック、水分、食事に気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夏は週3回、冬は週2回、時間を決めて入っている。状況に応じて安眠や休息が出来るように工夫している。	入浴の回数や時間帯の目安はあるが、入居者の状況に併せ随時対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて安眠や休息ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認のために服薬の状況を記録している。また症状の変化などについて常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力、体力を勘案しながら根気よく接し、本人の役割や楽しみがより豊かになるように創意工夫を常に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	欲しいものがあれば自分で選べるように外出支援をしたり、天気の良い日には散歩に出かけたり、外食、地域の行事に積極的に参加している。	一人ひとりの希望にそって、職員がついて外出支援を行っている。小学校の敬老会など地域の行事には全員で参加している。天気の良い日は散歩に出ている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームが管理しているが、買い物等は本人の希望に沿えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や大切な人との電話や手紙のやりとりが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居宅をそのままに残した玄関、共有スペースのメリットを十分に活かした空間の工夫。庭に梅、柿、栗、柚子など四季に応じて収穫できる木々を植えてそれを収穫するなど、年間を通じて季節を感じる家庭的な居場所を設置している。	普通の民家なので、自宅にいるような雰囲気である。特に居間はベランダを通じて庭に出ることができ、庭から四季の移り変わりを感ずることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間から直接ウッドデッキや庭にでられるなど、直接、外気に触れて目、肌、耳など身体で季節を感じられるような雰囲気づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓され、好みの絵画や写真を飾るなど長期にわたっても居心地の良い居住空間に可能な限り配慮している。	居室は畳敷きで、ベッドも布団も本人の希望に合わせて使用している。衣類等の整理も入居者それぞれの仕方で整理されている。調査当日は天気が良く、布団が干して有る等、普通の日常生活を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全職員が利用者の一人ひとりの状態を把握しており、建物内部の安心・安全に配慮して自立した生活習慣が充分可能なように支援態勢を創意工夫している。		